

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

- 1 坂口さんは、神戸にいた時とこの頃では歩き方がどのように変わったと感じていますか。歩き方を擬態語(オノマトペ)で表現した部分をそれぞれ4字以内で抜き出しましょう。

神戸にいた時

--	--	--	--

この頃

--	--	--	--

- 2 傍線部の問いの答えを、本文中から20字以内で語句を抜き出して入れて完成させましょう。

						から	

- 3 坂口さんの短歌の■の部分に入ることばとして、最もふさわしいと思うものを次の中から選んで○で囲みましょう。

駆けあし スキップ 休けい たかとび

最近、自分の歩き方にすら  
感じがない。

神戸にいた時は華麗なるすらす  
らウオークを披露しながら、そよ  
風のように三宮センター街を進ん  
でいったのに、この頃は後ろから  
歩いてきた人に押しのけられた  
り、前から歩いてくる人に突き飛  
ばされたり、電車の中でエルボー  
(肘打ち)されたり、すらすらと  
いうよりずたずた。なぜだろう。

ある日、一人で海に行った。誰  
もない、信号もない道を歩いて  
いる時、ふと思った。「どうしてこ  
の速度で歩いているんだろう」。一  
人で目的もなく歩くには速く歩き  
すぎていた。見えない誰かに追わ  
れているような速さだった。その  
時、気づいた。自分の歩きたい速  
度を忘れてしまっていることに。

無意識にこの流れを止めないよ  
うに、邪魔にならないようにと大  
きな流れに合わせて歩くようにな  
った。いつの間にかその速度が体  
に染み付いて、気持ちよりも体の  
方が先に進むようになっていた。

私は立ち止まり、自分の気持ち

## 自分の歩き方

### 随想

坂口 涼太郎



が体に追いついてくるのを待っ  
た。もしかしたら気持ちはまだ1  
駅手前にいたかもしれないいや、  
まだ家から外出できていなかった  
かもしれない。ようやく気持ちが  
追いついてきたところで、もう一  
度歩き出した。一步一步、これ  
でええよな? この速さで間違っ  
てないよな?と確認しながら。

今自分がどうしてこの速さで進  
んでいるのか、ちゃんと理由を自  
覚できていたらいいのだと思う。  
でも、無自覚なまま、ずっと社会  
のスピードに追われながら進んで  
いると、どこかでつまずく。

たとえ社会の大きな流れに合わ  
せて進めない人がいても、私は邪  
魔だなんて思わない。いつだって  
待てる人でありたい。もし待てな  
くなったら、待つてもらえなくな  
ったら、自分が今いる環境を見つ  
め直した方がいいのだと思う。

私は今日も自分の気持ちと相談  
しながら、社会の中を歩いていく。  
涼短歌へ楽しみで気持ちが前に  
いるときは追いつくために

をする

(俳優)

